

氏名（本籍） 平澤 玲子（東京都）
 学位の種類 博士（医学）
 学位記番号 博甲第 7027 号
 学位授与年月 平成 26 年 3 月 25 日
 学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当
 審査研究科 人間総合科学研究科
 学位論文題目 食生活に関する国際的ウェブ情報のクオリティの検証

主	査	筑波大学教授	医学博士	松崎 一葉
副	査	筑波大学准教授	博士（体育科学）	中田 由夫
副	査	筑波大学准教授	博士（医学）	矢作 直也
副	査	筑波大学講師	博士（医学）	岡田 昌也

論文の内容の要旨

（目的）

食生活は健康を規定するライフスタイルの重要な要素であり、ヘルスプロモーションの理念である「個人が自身の健康増進のために情報にアクセスする」ことを推進するためにも、個人にとっては適切な食生活・栄養に関する情報が利用可能なことが大切である。近年、これらの情報の入手先としてインターネットの利用が増大しているが、食生活に関するウェブサイトのクオリティを評価した研究は多くない。そこで、本研究ではインターネットの食生活・栄養情報をウェブサイトの体系的な充実度と記事内容の正確性から評価し、さらにウェブ情報の質が利用者に与える影響について検証を行った。

（対象と方法）

研究課題 1 では検索語“Mediterranean diet”（地中海食）で抽出された英語圏のウェブサイトについて、健康情報の評価指標である DISCERN、JAMA benchmarks、HONcode を使用した体裁の充実度の評価とリーダービリティを評価した。記事内容の正確性については地中海食の構成食品群とその摂取目安を観察した。

研究課題 2 では検索語“healthy diet”で抽出された英語圏のウェブサイトについて、情報源、最終更新日、専門家への相談の必要性の明記有無から体裁の充実度を評価した。情報の対象者とその目的についても観察した。記事の正確性は 6 種の食事療法ガイドラインに記述されている推奨事項内容との整合度を解析した。

研究課題 3 では、日本語のウェブサイトについて観察した。地中海食関連サイトについて、

DISCERN によるクオリティ評価、構成食品群とその摂取目安の表現の観察を行った。ヘルシーダイエット関連サイトについては、情報の目的を観察した。

研究課題 4 では、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターの栄養指導外来患者および内科外来患者を対象に観察調査を行った。対象者には糖尿病の食事療法に関する設問への回答を採す目的で自由なインターネット検索を行なってもらった。検索前後の回答の比較から学習効果を測定し、閲覧サイトの正解答有無および体裁の充実度の評価との関連を解析した。調査に当たっては、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターの倫理委員会の承認を受け、調査対象者からはインフォームドコンセントを得た。

(結果)

研究課題 1 では、インターネットの地中海食に関する情報は、体裁の充実度が低いものが多く、リーダビリティは難しすぎないことが観察された。記事内容は、地中海食の構成食品群の種類や摂取目安について統一した認識がされておらず、先行の疫学研究で引用されている地中海食パターンと必ずしも一致していないことが明らかとなった。

研究課題 2 では、インターネットのヘルシーダイエット情報の体裁的な充実度は低かった。情報の対象者を明記していないサイトが大半であり、また目的は「健康全般」が多くみられた。記事の正確性も食事療法ガイドラインと必ずしも一致していなかった。

研究課題 3 では、日本語の地中海食関連サイトの DISCERN 評価は低く、内容も研究で引用されている地中海食パターンと一致していないなど、英語の地中海食関連サイトにおける傾向に類似していた。日本語のヘルシーダイエット関連サイトは瘦身方法の紹介に関するものが多くなっていた。

研究課題 4 では、対象者が閲覧したウェブサイトにおいては、体裁が充実しているサイトの方が内容も正確であった。設問に正解できるかどうかはサイトの体裁的な充実度とは関連がなく、より多くのサイトを閲覧し正解を含むサイトを閲覧する機会が多いかどうかによる可能性が示唆された。

(考察)

個人の周囲にあるインターネットの食生活・栄養情報の質はさまざまであることが明らかとなったが、インターネット検索によって正確な知識を得られるかどうかは、ウェブサイトの体裁的な充実度より利用者のリテラシーに関連している可能性が示唆された。よって、ヘルスプロモーションの推進のためには、教育や啓蒙によって個人のリテラシー向上に取り組むことが必要であると考えられる。

審査の結果の要旨

(批評)

本研究は、インターネット上での適切な食生活と栄養に関する情報の正確性と、インターネット利用によって得られる知識の正確性について、ウェブサイト上の情報を対象として検証し、また患者観察によって実証的な検証を行ったものである。その結果、個人の周囲にあるインターネットの食生活・栄養情報の質はさまざまであることが明らかとなり、むしろ、利用者のリテラシーが重要である可能性が示唆された。したがって、ヘルスプロモーションの推進のためには、教育や啓蒙に

審査様式 2 - 1

よる個人のリテラシー向上の方策を探ることが重要であることを実証的に示した点に意義がある。

平成 26 年 1 月 22 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。